

グループワークについて

1. 目的

第 2 次健康づくり・食育推進計画の推進にあたり、これまでの協議会及び合同ワークショップでの検討結果を踏まえ、行政や関係団体が次年度以降に優先的に取り組む内容について検討する。

2. これまでの検討結果

昨年度の協議会及び令和 8 年 5 月に開催した関係団体・主任との合同ワークショップでは、以下の方向性が示された。

A グループ（健康格差の縮小）

【主な方向性】

- ・地域資源や人材を活かした健康づくり
- ・若者や子どもを起点とした健康づくり
- ・孤立しがちな人へのアウトリーチ
- ・楽しさや参加メリットを感じられる仕組みづくり

⇒ 地域資源や人材を活かした持続可能な健康づくりが重要

B グループ（職域との連携）

【主な方向性】

- ・若年期からの健康教育とヘルスリテラシー向上
- ・健康的な食環境づくり（スーパー・飲食店・社員食堂に適塩メニューの提供など）
- ・健康づくりを支える相談・受診環境の整備
- ・SNS やアプリを活用した情報発信

⇒ 自然と健康になれる環境づくりが重要

C グループ（食育とつながりづくり）

【主な方向性】

- ・SNS 等を活用した効果的な情報発信
- ・孤立予防や多世代交流の場づくり
- ・体験型食育の推進
- ・参加意欲を高める工夫

⇒ 人とのつながりを基盤とした健康づくり・食育が重要

3. 本日のグループワークテーマ

これまでの検討結果を踏まえ、今後どのように具体化していくかについて検討

【検討の視点】

- ・優先して取り組むべきことは何か
- ・関係団体として協力できることは何か
- ・関係団体同士で連携できることは何か
- ・行政に期待する役割は何か

A グループ

【テーマ】 働き盛り世代の肥満の改善のために、槇島でできることは？

【検討の視点】

- ・働き盛り世代の肥満や運動不足の改善につながる取組となっているか
- ・地域の健康リーダーやキーパーソンをどのように発掘・育成するか
- ・大学、企業、地域団体等とどのような連携ができるか
- ・若者や子どもを起点とした健康づくりをどのように展開するか
- ・健康づくりの取組に参加しにくい人へどのようにアプローチするか

B グループ

【テーマ】 働き盛り世代に健康づくりを「自分ごと」としてもらうには？

【検討の視点】

- ・健康づくりへの関心が低い層へどのように働きかけるか
- ・企業や職域と連携して実施できる取組は何か
- ・SNS やアプリ等をどのように活用できるか

C グループ

【テーマ】 健康づくりや食育を通じて、人とのつながりを広げるには？

【検討の視点】

- ・孤立予防につながる居場所づくり
- ・多世代交流を広げるための工夫
- ・食育活動の参加者を増やすための仕組みづくり

5. 進め方

- ① 個人で意見を付箋に記入
- ② グループ内で意見を共有
- ③ 意見を整理・グルーピング
- ④ 優先して取り組む内容を検討
- ⑤ 全体共有